

# 環境放射能除染学会誌 論文執筆要領 (和文原稿)

2019年10月1日 編集委員会制定

和文原稿は次の要領に従って執筆するものとする。英文原稿は別に定める英文投稿規程に従って執筆するものとする。

- 1 原稿の掲載頁数については制限を設けないが、印刷時点で21頁以上の場合には論文掲載料が必要である。
- 2 原稿はA4判用紙(縦)に横57字縦47行程度の1段組みで作成すること。数字およびローマ字は半角、それ以外は全角で記述する。本文(和文)のフォントはMS明朝9pt(英文部分はTimes New Roman 10pt)で、左右余白20mm、上下余白25mmにすること。タイトルのフォントはMSゴシック(英文部分はArial)を用い、論文タイトルは18pt、各章タイトルは10ptとする。太字(Bold)の指定は用いないこと。
- 3 章、節、項、目の見出し番号は次のように統一すること。  
1、2、3……………(章)  
(1)、(2)、(3)……………(節)  
a)、b)、c)……………(項)  
i)、ii)、iii)……………(目)
- 4 原稿は「です・ます」体ではなく、「である」体で記述する。また、参考文献以外では、文章の区切りは句読点を用いる(カンマ、ピリオドは用いない)。参考文献の記載ではカンマ、ピリオドを用いる(句読点は用いない)。
- 5 原稿は原則として白黒で印刷するが、カラー印刷が必要な場合は、1頁につき12,000円の掲載料が必要となる。
- 6 原稿はE-mailを用いて提出する。初回投稿時ならびに修正原稿はPDF形式で提出し、受理後の最終原稿はMicrosoft Word形式で提出するとともに、図表や写真は元ファイル(Excel、Power point、JPEGなど)で提出すること。
- 7 原稿は原則として次の順序で記載する。  
1 ページ目; 表題、著者全員の氏名と所属機関(研究が行われた場所)およびその住所、和文要約、和文キーワード、責任著者(Corresponding author)のE-mailアドレス。日本人著者名の記載では姓名の間を一字空けること。また責任著者に\*を付けること。なお、著者の所属機関が研究の行われた機関と異なる場合は脚注に“現所属”を記載する  
2 ページ目以降; 本文(図表などは本文中に挿入して作成)、謝辞、参考文献

最終ページ(英文ページ); 英文標題、英文著者名と英文所属機関、英文要約(Summary)、英文キーワード。英文ページでは責任著者以外の著者が所属する機関の住所記載は不要

- 8 本文の執筆順序は、はじめに、方法、結果、考察、(または結果と考察)、謝辞、参考文献を基本とする。原則として表はすべて英文で作成し、図及び写真の説明もすべて英文で執筆すること。ただし、英文表記が困難な場合は日本語で作成してもよい(その場合は図表すべてを日本語表記とする)。総説、解説、特集記事などは上述の執筆順序を参考に必要な項目のみを執筆し、記事の内容に応じて適宜変更してもよい。なお、図表などの作成において日本語での記載が必要な場合は論文投稿票にその旨を記載すること。
- 9 原稿には、3～5個の和文キーワードおよび英文キーワードを指定の場所に記入すること。
- 10 報文、研究ノート、各種報告、総説、解説、特集記事などには、和文要約(500文字以内)及び英文要約(Summary, 300語以内)をつけること。和文要約および英文要約(Summary)の文章内では改行はしない。
- 11 文字は、常用漢字、現代かなづかいを用い、口語体で簡潔に記述すること。略語を使用する時は、最初に現れるところで正式名称と略号を記載すること。例; 日本放送協会(NHK)
- 12 行を改めるときは、行の始まりを一字あけて書きはじめること。
- 13 原稿にはページ番号および行番号(ページごと)を付記すること。
- 14 英文字、ギリシャ文字、数字、記号は原則として英数字フォント(半角文字)を使用する。また、一般的なフォントを用いることとし、特殊なフォントの使用は避けること。大文字、小文字、斜体、上付き、下付きなどの区別を明確にすること。
- 15 脚注を使用する場合は、本文中の脚注を付ける箇所を上付きの†(ダガー)で示し、脚注は†を付けたページの下部に横線を引き、その下に記入する。
- 16 本文中で数式を記載する場合は、数式と本文との間を上下とも1行ずつ空ける。本文中で2つ以上の数式を記載する場合、式1、式2のように式番号を式の行の右端に記載する。

- 17 本文中の外国人名や外国の固有名詞などは原則として原語つづりとする。
- 18 単位は特に指定する場合(別表1)を除き、原則としてSI単位系により記載する。
- 19 論文中での年の表記は西暦を基本とするが、元号表記を希望する場合は西暦の後にカッコ書きで付記すること。ただし、法令の名称などで元号表記が使われている場合はこの限りではない。
- 20 一般的でない記号あるいは用語(外来語を含む)を用いるときは、注釈をつけるか本文中で定義付けを行うこととする。
- 21 参考文献は下記の凡例を参考に以下のように記載する。
- a) 学術誌の場合、著者名、表題名、雑誌名、巻(号)、はじめのページ-おわりのページ(出版年)の順に記載すること。通しページの雑誌の場合は号数の記載を省略してもよい。電子ジャーナルの場合は、DOIならびにURLを表示する。ページ付けがない電子ジャーナルの場合は、<e111>のように「e」の後に論文番号(111)を表示する。和文雑誌名は省略せず正式雑誌名で表記する。外国語雑誌名は省略名で記載してもよい。海外雑誌の省略名は下記のWebサイトなどを参考にするとよい。
- URL: <https://www.library.caltech.edu/journal-title-abbreviations>
- 単行本の場合は、引用箇所の著者名、表題名、ページ、本の表題名、本の編(著)者名、発行所、発行年の順に記載すること。著者名(和名)が3文字の場合は姓と名の間に一文字の空きを入れること。
- b) 著者が複数の場合は、全員を記載し、間にカンマ「,」を入れること。和文表記ではフルネーム(例; 森田昌敏)で、英文表記では名前はイニシャル(例; M. Morita)で記載すること。著者名の後ろにコロロン(:)、表題名と書名の後ろにはピリオド「.」を入れ、その他の各項目の間にすべてカンマ「,」を入れること、単行本の書名には、「」(和書)または“ ”(洋書)をつけることとする。
- c) 英文の雑誌ではTimes New Romanフォントによる表記を基本とし、雑誌名はイタリックに、巻はArialフォントによる表記とする。

#### [文献の記載例]

- 1) (和文雑誌の場合)  
上田佑子, 本田克久: ドリン系農薬の分析過程におけるいくつかの問題点とその検討. 環境化学, 20(1), 9-14 (2010).
- 2) (英文雑誌などの場合)  
E. K. Garger, F. O. Hoffman, C. W. Miller:

- Model testing using Chernobyl data: III. Atmospheric resuspension of radionuclides. *Health Phys.*, 70 (1), 18-24 (1996).
- 3) (ページ付けがある電子ジャーナルの場合)  
松原茂樹, 加藤芳秀, 江川誠二: 英文作成支援ツールとしての用例文検索システム ESCORT. 情報管理, 51, 251-259 (2008), doi: 10.1241/johokanri. 51.251, <http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/johokanri/51.251>.
- 4) (ページ付けがない電子ジャーナルの場合)  
S. A. Mabon, T. Misteli: Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. *PLoS Biol.*, 3 (11), e374 (2005), doi: 10.1371/journal.pbio.0030374, <http://biology.plosjournals.org/perlserv/?request=get-document&doi=10.1371/journal.pbio.0030374>.
- 5) (多人数で分担執筆した書籍の場合)  
赤木 右: 12章 地球の環境変化. 「地球化学講座 1 地球化学概説, pp.236-251, 日本地球化学会監修, 倍風館 (2005).
- 6) (書籍の場合)  
富永 健, 佐野博敏: 「放射化学概論(第3版)」, 東京大学出版会 (2011), 242 p.  
(注; ページ数の後に「p」を付加して総ページ数であることを示す)
- 7) (官公庁などが発行した資料などの場合)  
環境省: 「除染関係ガイドライン 第2版(平成25年5月)」, 第2編 除染等の措置に係るガイドライン. pp.25-29, 環境省 (2013).
- 8) (海外発行の書籍の場合)  
C. Rappe, M. Nygren, H. R. Buser: Chapter 6. Isomer-specific analysis of dioxins and dibenzofurans by HRGC/SIM-MS. In “Applications of New Mass Spectrometry Techniques in Pesticide Chemistry”, Ed. by J. D. Rosen, John Wiley & Sons, Inc., pp.60-83 (1987).
- 9) (学会などの要旨集の場合)  
池上麻衣子, 福谷 哲, 米田 稔, 島田洋子, 松井康人: 土壌の熱処理に伴うCs溶出量の変化. 第2回環境放射能除染学会研究発表会要旨集, p.20 (2013).  
(注; 当該ページ数が1ページのみ場合は「p.」を、複数ページにわたる場合は「pp.」の後にページ数を記載する)
- 10) (Web情報などの場合)  
「除染に伴って生じる除去土壌等の試算について」環境省 HP (<http://www.env.go.jp/jishin/rmp.html>), 2012年12月閲覧.

- 22 図表をマイクロソフト社 Office 系でないフリーソフト等（「R」、「NGRAPH」、その他）で作成する場合、学会の編集ソフト（Adobe 社の「InDesign」）で取り込み可能かどうかを事前に編集事務局に問い合わせること。
- 23 図（A4 判の用紙に入る大きさ）、写真は十分な解像度（製本印刷時に 300 dpi 以上となる解像度）で鮮明に作成すること。
- 24 図、表、写真には、Fig. 1、Fig. 2…、Table 1、Table 2…のように必ず番号と表題を付けること。写真は図として扱う。番号と標題の記載位置は図と写真では下部、表では上部とする。
- 25 図、表、写真はすべて 1 段組みで作成する。図の作成において横軸と縦軸のラベルおよび目盛りはそれぞれ図の下側と左側に記載すること。ただし、横軸または縦軸を二軸で作成する場合はこの限りではない。
- 26 表は本文と同様のフォントサイズおよび行間となるよう作成するのが望ましい。
- 27 図表の作成において既存文献のデータなどを使用する場合は、参考文献の番号を表示するのではなく、図表の下部に脚注の形で著者名、雑誌名、巻号、頁、発行年などを簡潔に表示すること。例；A. Yasuhara et al., J. Agric. Food Chem., 51, 4001 (2003).
- 28 図、表、写真の挿入位置は編集事務局に一任する。
- 29 既発表の論文などやホームページから図や表、文章などを転載・引用することは論文不正の疑いを招く可能性があるために避けるのが望ましいが、やむを得ない場合は責任著者が著作権者からの転載・引用の許可を取得すること。また、当該図表などの脚注に“転載・

引用の許可済み“の文言を記載すること。万一、論文公表後に転載・引用許可を取得していないことが発覚した場合、第一の責任は著者にあり、学会誌としての対応は編集委員会において決定する。

- 30 放射性元素は元素記号での表記を原則とし、<sup>134</sup>Cs、<sup>137</sup>Cs、<sup>90</sup>Sr などの形で記載すること。別表 1 を参照。
- 31 その他、上記の細則で定めていないことも含めて、誌面の統一性を保つために、編集事務局は「現代かなづかい」や「JIS X 4051」に準拠して、原稿の字句・文言や配置を適宜修正できることとする。

付則

本執筆要領は 2019 年 10 月 1 日、従来の投稿規程から独立して制定された。

別表 1 本誌における単位などの表記

以下に示す表記に従うものとする。

| 本誌における単位など                            | 表記の例   |
|---------------------------------------|--|
| 体積 (リットル)                             | L, ℓ, dm <sup>3</sup>                                  |
| 濃度                                    | μg/g, μg・g <sup>-1</sup>                               |
| 年号<br>(西暦年で表示。ただし、資料名などの固有名詞では元号表記も可) | 2019 年   |
| 放射性同位元素                               | <sup>134</sup> Cs, <sup>137</sup> Cs, <sup>90</sup> Sr |

